

クローズアップ



親子で仲良くクッキング

前橋プラザ元気21で7月31日と8月1日、「親子deクッキング」講座が行われました。この催しはことしから開催され、12組の親子が参加。面白手巻きずしや tonton 汁を作りました。参加者は、ボリューム満点の料理を食べながら、楽しく談笑しました。

7月26日、ベイシア前橋モールで「チャレンジこども商人」を開催。参加した21人の小中学生は、物を売る仕組みや流れ、販売・接客方法を学んだ後、実際に商品の販売を体験。小さな商人の元気な掛け声がモールに響きました。



元気な声で販売体験

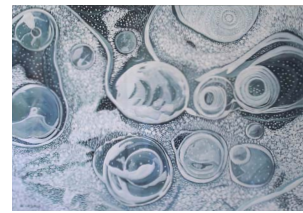
8月30日(日)まで前橋文学館で、萩原朔太郎賞受賞者・鈴木志郎康さんの展覧会を開催中。会場に訪れた人たちは、直筆原稿や写真に興味津々。22日(土)・23日(日)には本人による講演会も行います。



仕組みを知って防ぐ食中毒

総合福祉会館で7月31日、県衛生環境研究所から講師を招き、食中毒予防講座を開催。食中毒菌の活動が活発になるこの時季、食中毒の発生状況や予防対策についての興味深い話に400人が熱心に聴き入っていました。

表現する楽しさを感じて



群馬美術家連盟の第59回連盟展で、洋画、日本画、建築、ジュニアの4部門871点の応募の中から最高賞に輝く。「絵を始めたのは67歳になってから。連盟展の応募は3回目。受賞で大きく変えられようと思っています」受賞作は「空氷(B)」。曲線を中心に氷の結晶を独自の表現で描いた水彩画。白色と濃い青色で表現された氷の泡が閉じ込められる。それをヒントに作品化した。

「以前から氷などの自然美に興味があり、実際に見た物を絵の題材にしています」一時期は仏教関係の題材に。高野山の御影堂を描いた作品に向かい見

学者が合掌する姿を見て、絵の影響を強く感じたと言う。若いころは、川柳や短歌、写真も趣味に。川柳では全国版新聞の時事川柳コーナーに何度も掲載され、写真展では入賞するほどの腕前。「今は地球温暖化など環境破壊が気になります。氷は自然の美しい造形。その美しさが見られなくなるのが心配です」絵を通して環境保護も訴える。「絵は人生の励みになります。誰にでも生涯学習として絵を描いてもいい。わたしも60の手習いよりも遅く、絵を始めたし、何事も遅いというのではないですよ」と、笑顔で話す姿はまだまだ若い。いつまでも元気で自然の美しさを表現し続けてほしい。

いきいき まえばし人



第59回連盟展で最高の連盟賞
金井 彌さん・72歳
総社町植野



校外で行う写生大会

本校の特色ある行事の一つに写生大会があります。全校生徒が地域に出掛け、雄大な自然を相手に伸び伸びと筆を走らせます。完成した作品は、生徒玄関や廊下に展示を残すことができました。本心を一つにして練習。休み時間や放課後には、あちこちの教室から歌声が響いてきます。学校の練習から市民文化会館で行う本番まで、仲間と協力することの楽しさや大切さ、そして多くの感動を味わうことができます。生徒会活動では、ベルマークやプルタブ、ペットボトルキャップの回収に力を入れています。特に「プルタブで椅子を、キャップでワクチン」を目標に掲げ全校で一丸となって取り組んでいます。中学校での生活は3年間と短いですが、木瀬中は今できることに一生懸命取り組み、頑張っています。



心に響く歌声

わたしたちの学校 ニュース

勉強や運動に一生懸命

生徒会長 長谷川 悠貴さん

木瀬中